

Lead

All roads lead to the future リード



コミュニケーションペーパー
2013 夏号
¥0
TAKE FREE



〈特集〉
キャンパスを飛び出そう
学びのフィールド

特集 社会 協働 地域 協働
日曜市に活力!

Sunday Market Supporters
地域に飛び込む最初の一步
えんむすび隊
学生と地域の出会いの場
総合教育センター・リエゾンオフィス
人間を磨く学びのフィールド
インターンシップ・海外留学
のぞいてみよう高知大学の授業!!
〈農学部〉Labo通信
高知大学のキラ星
防災すけっと隊
高知大学ニュース

日曜日

高知大学で開催するイベントをご紹介します。

イベントインフォメーション Event information 2013 夏号 Summer 夏号

オープンキャンパスの お知らせ Open campus 2013



朝倉キャンパス

8/3 人文学部 10:00 ~15:00
入試や学生生活の質問に教員・在学生が対応します。
●学部・学科紹介 ●入試相談 ●在学生による相談コーナー ●保護者の方への案内 ●模擬授業 ●在学生の話
(詳しくは、人文学部ホームページで案内します。)
<http://jinbun.cc.kochi-u.ac.jp/>

8/3 理学部 10:00 ~15:00
●学部紹介 ●学部構成と入試概要 ●わたしの大学生活(先輩の話) ●パネル展示と入試相談コーナー
※理学部1・2号館、情報棟、地震観測所、水熱化学実験所(附属施設は自由に見学できます。)

8/4 教育学部 10:00 ~15:00
●学部説明 ●平成26年度の入試について ●学校教育教員養成課程、生涯教育課程のコース紹介 ●入試相談・生活相談



8/3 8/4 保護者向けガイダンス
就職・奨学金・授業料免除・留学 ●寮見学ツアー ●サークル紹介 ●なんでも相談コーナー
関係の説明を行います。

8/3 土佐さきがけプログラム 10:00 ~15:00

岡豊キャンパス

8/4 医学部 13:00 ~16:30
●医学科説明 ●入試情報 ●模擬授業 ●スキルスラボ実習体験 ●研究室見学 ●教員・在学生への質問コーナー



8/4 看護学科 10:00 ~12:30
●看護学科説明 ●入試情報 ●カリキュラム説明 ●実習室見学・体験 ●教員・在学生への質問コーナー

物部キャンパス

8/4 農学部 9:00 ~16:00
●高知大学農学部の見どころ・学びとは ●役に立つ入試情報 ●コース別企画により各コースの魅力に触れる ●在学生による大学生活紹介 ●パネル展示 ●キャンパス内施設見学と研究室めぐり ●入試・相談コーナー



8/4 土佐さきがけプログラム 9:00 ~16:00
生命・環境人材育成コース

◎企画の内容、開催時間は変更となる場合があります。◎詳細が決まり次第、順次ホームページに掲載します。(http://www.kochi-u.ac.jp/nyusi/open-campus.html)
◎高知大学ホームページ・携帯電話サイト(http://daigaku.jp/kochi-u/)から申込をお願いします。

イベント情報
今年も続々開催決定!!

物部キャンパス 一日公開 11/3

地域の特産品、農作物の販売や人気のトレーラー体験コーナーをはじめ、大学を身近に感じられる催しが一杯です。お問い合わせの上、是非お越し下さい。



南風祭開催

岡豊キャンパス

10/12 10:00 ~19:00 10/13 10:00 ~20:45
高知100% ~ボクらの学祭リニューアル~

今年のテーマは、みんな一人一人がそろって100%の力を出し切ろうという想いと、前年、さらに前の南風祭より、もっと面白く変えていこうという意思がこめられています。



ほかにもあるよ!

第4回ホームカミングデー 今年も開催

卒業生の皆様の多数のご参加をお待ちしています。

黒潮祭

朝倉キャンパス

11月2日(土)、3日(日)に開催します。遊びに来て下さい。



月2回(第2・4金曜日)高知大学からメールマガジンを配信しています。大学の「入試情報(重要)」から「あれこれ(これは面白い)」まで高知大学づくしの情報をタイムリーに発信します。

登録はこちら



<http://daigaku.jp/kochi-u>

お問い合わせ先 皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。



高知大学
Kochi University

高知大学広報戦略室
高知大学 検索
<http://www.kochi-u.ac.jp/>

TEL.088-844-8643 FAX.088-844-8033
〒780-8520 高知市曙町2-5-1 E-mail:kh13@kochi-u.ac.jp

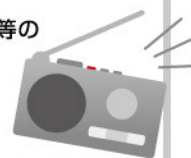
高知大学の最新情報を伝えたい

THE こうち ユニバーシティ CLUB

FM 高知 81.6MHz 毎週日曜日 放送中 9:30~9:55

高知大学の教育、研究、地域貢献等のホットな情報をお届けします。是非、お聴き下さい。

スポンサー企業
高知銀行/放送大学/弘文印刷



観光客に高知の食材をアピール！



サンデーマーケットサポーターズ
人文学部社会経済学科 3年生

やま さき ま な
山崎 真名

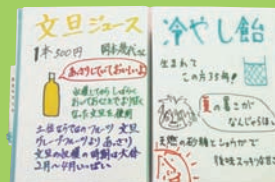
高知市出身で、日曜市は子どものころから父親に連れられてきていたおなじみの場所だとか。「SMSでは出店者側の目線に立てるのでとても新鮮に感じています。将来はまちづくりに挑むような仕事をしたいです」

SMSは現場での活動のほかにイベント企画にも取り組んでいて、日曜市の食材を使った弁当をつくって販売を行いました。観光客は日曜市に来て、店に並ぶ食材をその場で食べることがなかなかできません。日曜市で売られている高知独特の生鮮食材を食べてもらおうと企画しました。

このほか、地元の若者を日曜市に呼び込むための企画を立てたり、シンポジウムを開催したりしています。SMSの活動で、出店者さんに自分から積極的に話しかけられるようになりました。まわりの役に立つだけでなく、自身の社会性も磨けているのではないかなと思っています。



SMSの日曜市での活動を
留学生に紹介



日曜市取材した
日曜市ノート



日曜市に活力！

〈特集〉 社会 協働・地域 協働

日曜市を支える 緑の下の力持ちに

高知市中心街で毎週日曜日に催される「日曜市」は、日本で最大級の青空マーケット。約13kmの路上に、400店以上の出店が並びます。その歴史は300年以上で、近郊農家の生産者などが売り手となっており、新鮮な野菜や果物から総菜、工芸品まで商品は多彩。古くから高知市民の台所市として親しまれ、近年は多くの観光客が訪れる観光スポットとしても賑わっています。

この日曜市を学びの場を選び、活躍している高知大生たちがいます。そのひとつがサンデーマーケットサポーターズ(Sunday Market Supporters以下SMS)。出店者のお手伝いや市の案内などの活動をしています。市の一角に設ける2カ所の専用



せまで対応します。高知のおもてなしの最前線に立っているだけに、「わかりません」とは言いづらい、言いたくない。そこで、事前にメンバーたちは出店者を1軒1軒まわって、何を売っているかなどを細かく取材。それをノートにまとめて、観光客の問い合わせに対応しています。

大学から外に出ないと、コミュニケーションの対象は同年代の友人と教えるを受けている先生らに限られてしまいます。それが日曜市という現場に飛び込むことで、さまざまな年齢の人たちとの交流を経験できます。さらに、現場に入るからこそ、今の日曜市が直面している課題も見えてきます。「SMSの活動を通して、日曜市を訪れる若者が少ないことに気付きました。そこで、若者向けのアプローチに取り組んでいます。授業やゼミでこれまで学んできたことも、この活動で活かしていると感じています」とメンバーの一人は話します。

生産から販売まで 関わって 集落に深く寄り添う

一方、SMS以外にも日曜市でより生産者に近い立場から活動しているのが、四国山地の中山間地、大豊町怒田地区の農産加工品を商品化して販売する学生グループです。袋詰やラベル貼りなども学生



テントがメンバーの活動拠点。観光客のために観光パンフレットを準備したり、周辺の出店のテントの設営を手伝ったりします。日曜市の出店者の多くは高齢者なので、学生たちの機動力が効果を発揮します。店番をしたり、販売を手伝ったりして、周辺の出店者とすつきり顔なじみになり、頼られる存在になっています。なにより、「若い人が入ってくると市に活気が生まれるから、うれしいね」と出店者から喜ばれています。



観光客にパンフレットを使って説明

また、観光客に向けた日曜市案内を実施。トイレの場所から、「あの商品を売っているのはどこ？」といったピンポイントの問い合わせ



大豊町の農産加工品を販売する農学部などの学生たち

日曜市という学びの場では、教室のように一方的に教わることはありません。学生たちは主体的に関わることで、自ら課題を見つけ、その解決に向かって真剣に取り組むことで成長につながっています。そんな姿は、少なからず地域の活力にもなっているようです。



リエゾンオフィス室長
総合教育センター
特任講師

いま じょう いつ お
今城 逸雄

高知県出身。明治学院大学経済学部卒業。1992年、高知商工会議所に勤務し、主に商店街の活性化を担当。在職中、高知大学大学院人文社会科学研究科を修了。2005年には高知県特別職知事秘書に就任。2010年より現職。「いまの学生はとってもまじめ、ちょっと回り道してもいいんだよ、とアドバイスしたいですね」

コラボレーション・サポート・パーク
(通称コラパ〜)の頼れるサポーター



清水同名子(しみず みなこ)／地域と学生のマッチング
ほか担当「考え方や生き方の骨組みになるような出会い
や体験ができるよう、お手伝いしていきたいですね」



福井美和(ふくい みわ)／インターンシップ担当「広い経験
とさまざまな出会いを通して、深いつながりのある大学生
活を送ってほしい。そこから見える未来があるはず」



大槻聖子(おおつき せいこ)／コラボ工房プロジェクト
担当「活動が続けるには、苦労や困難はつきもの。しか
し、続けることで得るものがあるので頑張ってください」

私たちが応援します！

学生と地域の出会いの場

総合教育センター リエゾンオフィス 「コラボレーション・サポート・パーク」 (通称:コラパ〜)

学生の“やりたい気持ち”を応援して
学びの場を広げ、地域にもっと活力を

●リエゾンオフィスの役割は？

一言で言うと、学生と地域を結ぶ懸け橋として、学生活動を支援することです。「えんむすび隊」(P3)の企画・運営や、学生たちの中で生まれる「地域で何かやりたい」という気持ちの受け皿として、学生たちが企画したプロジェクトを支援する「コラボ工房プロジェクト」や「S・O・S 認定活動※」、首都圏や高知県内の企業を対象にしたインターンシップも行っています。また、高知大学では、すべての学部を対象として地域の実情を見たり、地域の方の話を聞く授業を行っています。そのための教育フィールドの開発もしています。

●学生が地域で学ぶことの意味は？

学生は大学入学まで学校以外の人と接点が少なく、非常に狭い世界で生きてきています。入学後に勉強することを社会でどのように活かすことができるのかというリアルなつながりを、自分の中で感じたり組み立てたり



できない状態です。そういった状態で4年間、キャンパスで過ごすだけでは、実社会に出た時に少なからず壁にぶつかることになる。地域に出てさまざまな人と関わり、それまで知らなかった世界を知ることは大いに意味があると思います。

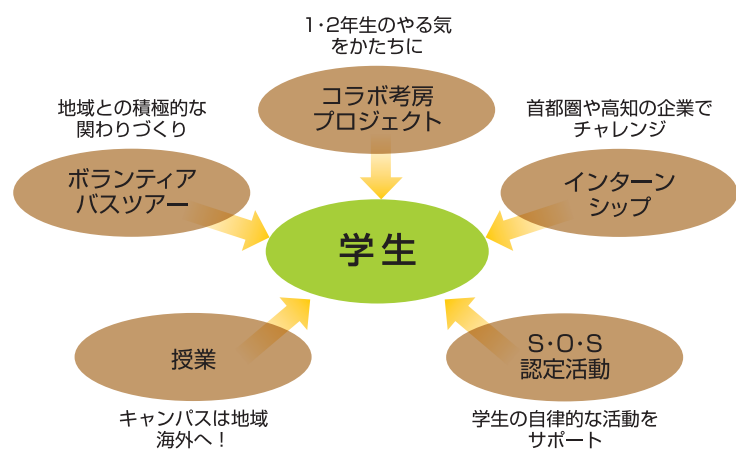
●学生は地域に出てどのような 事をすることができますか？

たとえば県内の中山間地に行くと、若者たちが来た！というだけで地域の方は喜んでくださいます。農作業の手伝いや、イベントの運営をすることで「ありがとう」の言葉をいただけ、学生たちの「やればできる」というやる気につながります。一方で「君たちは学びにきているのだよ。何を学んだの？」とちょっと厳しいご指摘をいただくこともあります。これは学生にとってとてもいいことで、「できる」と思っていた自分が、じつはまだまだ足りないことに気がつく機会になります。学生は一度、へこたれたほうがいいのです。そこから問題意識が生まれるのですから。

●今後の方針は？

これからもさまざまな機会で、学生と地域を結ぶための支援をしていきたいですね。同時に、地域の皆さんが気軽に大学に来ていただくための窓口にもなりたいと考えています。

学生と社会をつなぐリエゾンオフィスの支援メニュー



「何かやってみたいんだけど…」
「ボランティアに参加したい！」
生の中には、そんな思いを抱いて
いる人が多くいます。しかし、どう
すればいいのか、手をこまねいて
いるのが実情。そこで、最初の一步
を踏み出すためのお試し企画とし
てリエゾンオフィスが運営してい
るのが「高知大学えんむすび隊」で
す。
毎月1回程度、県内各地を訪ね
るワンデイツアーを実施。あると
きは田舎のおばちゃんたちと郷土
料理をつくったり、またある時は
山里の運動会に参加したり…。農
作業の大変さを実感し、地域のイ
ベントを通して地域がかかえる問
題にふれたりしています。
たとえば5月のある日、えんむ
すび隊が向かったのは高知県西部

の山里、中土佐町大野見地区。参加
したのは3人の男子学生です。月
に1回、モーニングサービスを提
供するカフェを運営している女性
グループ「ほのほの倶楽部読遊会」
が迎えてくれました。
最初の活動は、モーニングサー
ビスのお手伝い。高知大生が来る
からと、いつもより多くのお客さ
んで大忙しでした。昼からは茶摘
みを体験。生まれて初めての茶摘
みをする学生たちのたどたどしい
様子に、おばちゃんたちは笑顔が
隠せない様子でした。
参加した学生たちは、「地域その
ものを体で感じられた」と話しま
す。また、受け入れていただいたほ
のほの倶楽部読遊会の会長、南部
桂さんは、「高知大学の学生にはい
つも元気をもらっています。これ

からも学生
たちと関わ
っていただけ
ると思います」と話して
くれました。
こうした活動も、
「うん、よく頑張った
よね」という学生の
達成感だけで終わってしまうので
は、深い学びにはつながりません。
そこで、えんむすび隊に参加する
のは、活動後のレポート提出が条
件。地域で活動することにより、
何に気がついたのか
を振り返り、自分と
社会とのかかわりを
考えるきつ
かけにつな
げようとし
ています。
「これから
がんばろー！
えんむすび
隊！」

ほのほの倶楽部
読遊会 会長
なん ぶ けい
南部 桂さん



地域に飛び込む最初の一步
えんむすび隊
出動!!

えんむすび隊

大野見へ行く

海外留学 学生×海外

異国の地で「わからないから教えて」と聞くこと、自分から働きかけることの大切さに気付く

3年生の夏休みに、イタリアの連携大学に1ヵ月半、短期留学していました。実は2年生からSMS(P1)で活動しており、市場に興味がありました。そこで、街路市の本場であるヨーロッパで市場の研究を留学のテーマにしました。留学では、まず自分から動かなければならないことを学びました。わからないことがあれば「教えて」と聞き、自分から発言もする。そうして初めて、学生同士の議論に加われるし、相手も答えてくれるん

です。自主性を持つことがいかに大切か、日本とは違い、どん欲に学びを求める海外の学生たちの中に身を置いて分かる、特殊な環境の中で感性が敏感になっていたからこそ気付けたのではないかなと思います。

イタリア語を話せないでコミュニケーションには苦労しましたが、いろいろな経験ができました。もし、明日もう1回行って来いと言われたら、すぐに行くことができるだけの自信ができました。



人文学部国際社会
コミュニケーション学科 4年生

あそ ゆうや
阿曾 佑也

兵庫県出身。「航空チケットの入手からホテルの手配まで、全部自分でやらなければいけません。途中で、ホテルが取れなくてあわてたことも。ハブニングだらけの留学でしたが、今ではいい思い出かも? (笑)」現在は高校教師を目指して勉強中。



人文学部
社会経済学科 3年生

し もと り さ
岸本 里桜

岡山県出身。もともとは教職志望だったが、インターンシップの経験などを経て、今は民間企業への就職を希望しているのだとか。「インターンシップが終わった時、高南メディカルの部長さんから、『まだいいよ!』と言われたんです。うれしかったです!」

インターンシップや海外留学も人間を磨く学びのフィールドだ!

人との関わりを意識したインターンシップや、課題解決能力の養成を目指した短期留学。ユニークな目的を持った新しい世界での経験が学生の人間力に磨きをかける

学生×企業

社会に出て何ができるか
実際に試してみたかった

病院給食などを行う高南メディカルという企業で3週間、SBI※のインターンシップをさせていただきました。就活のためのインターンシップとは違い、SBIは人間関係を形成する力を身につけることを目的にしているのが特徴です。もうすぐ就職活動が始まるという時期なので、自分は社会に出てどんなことができるのだろう、実際に試してみたい、と思ったことがチャレンジした動機です。インターンシップでは、厨房での作業などを行いました。仕事を通じて食品業界の衛生管理の厳しさなど、全く知らなかった一面に触れることができました。また、働く上ではいかにコミュニケーションを円滑に図るかが大切なことを学びました。いろいろな指摘を受けたり、うまくいかなかったりすることもあったのですが、迷ったり悩んだりして一生懸命考えたなら、きちんと評価もされる。働くことは楽しい!と感じました。

インターンシップ



(中央:岸本)

学生を受け入れると
企業の課題が見えてくる

SBIは、学生を「お客さん」として受け入れるのではなく、社員の一人として仕事に従事する経験をつくってほしいと大学から要請を受けています。学生の皆さんには、調理現場での盛り付けなどを体験していただきました。従来のインターンシップとは違い、学生さんも大変だったのではないのでしょうか。SBIでは社員が学生の指導を行います。学生と関わることで、社員もスーパバイザーとしての成長につながったと思います。現場に学生が入るとのこととは、まったく何も分からない新人が加わるということ。社員は段取りや動きを工夫して、受け入れ環境を整えています。インターンシップを受け入れることで、企業の課題も見えてきます。SBIは企業にとっても、良い刺激を受けるといふメリットがありますね。



現場実習風景



SBIに参加した農学部と人文学部の学生(右:岸本)

株式会社 高南メディカル
取締役副社長

みや もと たか のり

宮本 高憲さん

高知県出身。「以前のインターンシップでは、私との同行が主になっていました。今回のSBIでは会社ぐるみで学生と向き合うことが出来たのが学生にしても私達にしても良かったですね」



大学での学問にフィードバックできる、地域の学びは自分自身を見つめ直す格好の場

学生にとって、地域の中で活動することも大切な勉強です。その中で自分は何ができるのかと自分を見つめ直し、未熟さに気付く、もっと勉強しなければいけないと痛切に感じる。そうした思いが、勉学への非常に強い動機づけになると期待できます。また、地域の役に立つことで、自分ができるんだという前向きな姿勢を身につけることもできる。

現実社会に関わることで、大学で学ぶ学問が世の中とつながっていることに気付く、より深い学びを実現できるのではないのでしょうか。地域活動と、大学で知識体系を専門的に学ぶことの両者が相まって初めて、大学の教育機能を十全に果たすことができるのだと思います。



総合教育センター センター長
人文社会科学系教育学部門教授

ふじ た なお み
藤田 尚文

東京大学卒業。博士(心理学)。1983年、高知大学に着任。専門は教育心理学と実験心理学で、最近では学力の二極化について研究を進めている。「高知大学には5,000人の学生がいます。このマンパワーはすごい!いろいろな形で地域の活性化につながる可能性を秘めています」



共同研究で水環境の保全を実現する！

「水環境保全」

水環境保全

教員 藤原 拓先生

× 学生 伊藤 美早紀さん

「藤原先生は環境工学が専門ですね。大学院生の伊藤さんは、先生が指導する研究室で日々、研究に励んでいます。まず、先生の研究内容から教えてください。」

藤原 環境工学のなかでも、下水やゴミ処分場から出る水の浄化など、水環境を守る技術の開発に取り組んでいます。農業地域での水環境の保全も大きなテーマで、国が進めている科学技術振興機構CRESTにも参加しています。

伊藤 私は元々実験が好きで、特に水処理に興味がありました。藤原先生の研究室に入ったのは、先生が講義してくれた水質学実験の授業がすごく楽しかったからです。この研究室での経験を活かして、将来は

下水処理場の設計や、下水の水質調査をしたいと思っています。

CRESTについては今年3月、藤原先生が代表で進めている共同研究が、課題中間評価で高く評価されたそうです。

藤原 共同研究の1つは、農地に残った肥料分や塩分の浄化に関するものです。ただ洗い流すだけでは、地下水の汚染や温暖化ガスの発生という問題が生じます。そこで、養分吸収力の高いトウモロコシを育て、まず土を浄化し、その後、除塩するという研究をしています。さらに、浄化用の作物から生分解性のプラスチックをつくったり、肥料の元となる元素を回収したり、浄化と価値を生み出すことが一体となったシ

水環境の改善と共に
新たな価値を生み出す
システムづくりを！



「リサイクルと「リ」や「再」などの言葉は世の中にいっぱいある。」

マイナスをプラスにする技術開発へ



きれいな水環境をずっと守っていきたいです！

STEMづくりに取り組んでいます。

「水環境だけがテーマではないですね。藤原 そうです。CRESTではほかに、家畜の糞尿の浄化などの共同研究を進めています。飼育中、健康に育てるために薬を与えることがありますが、その成分の除去、肥料成分の回収などに関する技術を開発し、より安全なリサイクルを目指すものです。また、作物の収穫や加工の過程で出るゴミの利用方法を養殖や紙が専門の先生と共同で考え、柚子の搾りかすをエサにする土佐ゆずぶりといい、ゴミを宝に変えるような仕組みづくりなどにも取り組んでいます。」

伊藤さんはどのような研究を担当していますか？

伊藤 吸着剤などを使って、トン



PROFILE

自然科学系 農学部門教授

藤原 拓 (写真左)

京都府出身。京都大学大学院工学研究科修士(工学)。1999年、高知大学に赴任。「いま共同研究に取り組んでいますが、工学部出身で農学部にいるということ自体が異分野交流かな(笑)」。小学校から大学院までサッカーに熱中。じつは根っからの体育会系研究者。

農学部 大学院2年生

伊藤 美早紀さん(写真右)

大阪府出身。高知大学農学部卒業。研究や実験の大好きなリケジョ(理系女子)。研究室での努力が実り、希望する職種に就職内定した。藤原先生と同じく、じつは体育会系で、小学校から大学まで水泳に励む。得意種目は背泳ぎ。

家畜の尿に含有する薬など、汚染につながるものをなくしていく研究を。

ニョウから薬を除去する研究などをしていきます。

「トンニョウ？」

伊藤 あ、豚の尿のことです。いまは実際の豚尿ではなく、成分を模したものをを使って実験しています。測定して、予想通りに除去されている時は面白いですね。うまくいかなかった場合は、先生とディスカッションしながら改善していきます。

「高知大学では共同研究も盛んに行われているんですね。」

藤原 研究室の間の壁がないのが良いですね。別分野の人でも、同じ研究室にいるかのように、一致団結して取り組んでいます。こうした自由で小回りのきくところが、高知大学の良いところだと思います。

学生ならではの力で 防災をもっと身近に 防災すけっと隊

防災意識向上の
きっかけづくり



近い将来、襲来が予測される南海トラフ地震。その対策が急がれる高知県で、地域の防災力をアップしようと奮闘しているサークルが「防災すけっと隊」です。結成は2008年。防災意識を高知県内に広めるために、高知大生としてできることはないか、という問題意識を持った学生たちによって結成されました。現在、15人のメンバーで活動しています。すけっと隊の代表を務める梅田知佳さんに聞きました。主な活動は、高知県内の幼稚園児や小・中・高校生、自主防災組織に向けた防災授業を開催すること。授業は、対象が幼稚園児や小学校低

防災に興味を
持つてもらいたい



理学部応用理学科
災害科学コース 3年生
梅田 知佳さん

学年の児童なら、楽しみながら地震の時の行動などを学べるように、ゲーム性の高い授業を、中・高校生や大人が対象の場合、グループワークを提案したとえば避難袋に何を入れるかななどを一緒に考えながら防災への関心が高まるように内容を工夫しています。また、授業を行う地域によっても内容を変更。沿岸部では津波避難に重点を置き、内陸部ならば浸水やけがに対する対処などをテーマにします。メンバーは1ヵ月以上かけて、授業の構想を練り上げます。「私たちは学生ですので、専門家のような指導はできません。この防災授業はあくまでもきっかけづくり。防災授業を受けていただくことで、子どもたちや地域住民の皆さんが災害や防災に関心を持つてもらえるようになればと考えています」

危険度マップで、学内に 防災情報を発信



実はシャツの裏に...

危険度マップ

地域を守るぞ!!

おー!!



危険度
マップ

い経験をさせていただいていると感じています」

すけっと隊では防災授業のほかに、危険度マップの制作や募金活動、大学祭の「黒潮祭」でPR活動などを行っています。「危険度マップは大学の依頼で、朝倉キャンパスを中心に、近隣地域について制作しました。実際にキャンパス周辺を歩き、特に通学路を重点的にチェックして、危険箇所を描き込みました。今後は学内に掲示したり、縮小版を学生に配布したりすることを計画しています」

東日本大震災の発生以降、防災授業の依頼が増えているという防災すけっと隊。授業を通して、以前にも増して南海地震への関心が高まっていることを感じています。これからは学外だけでなく、学内に向けても、防災を楽しく学べるように積極的に活動して行きたいです」とこれからの抱負を語ります。

キラ★星 高知大生

学内外でキラッと光る
高知大生をピックアップ!



週に1度のミーティング



楽しく
伝える!!



地域での活動風景

高知大学ニュース

良質の音楽を届けて14回 ジョイフルコンサート、ファイナルに

プロと地域が共演し
誰でも気軽に楽しめる
クラシックを



教育学部の協岡総一教授が代表を務める「ジョイフルコンサートシリーズコーチ」。去る5月3日、高知県立県民文化ホールで行われた14回目のコンサートでファイナルを迎えました。「来年3月で退職を迎えるので、節目としての最終公演でした」と協岡教授は話します。

2006年に開始されたジョイフルコンサートは、副題に冠せられた「気軽にクラシック」の言葉通り、親しみやすいクラシックの名曲を楽しめると好評を博してきました。協岡教授は演奏のほかに音楽監督を務め、演奏家の招へいなども自らこなしてきました。

「日本を代表する演奏家による演奏を高知の皆さんに聴いていただき、音楽の楽しさをより深く感じていただければ、という思いでした。ファンの方も多く、毎回、楽しみにしていたことが喜びですね」

コンサートのもう一つの目的が、地域の音楽のレベルアップでした。コンサートには、高知大学の学生や地域で演奏活動続ける人たちも

▲ジョイフルコンサート歴代ポスター

人文社会科学系 教育学部門教授 協岡 総一

広島県出身。オーボエ奏者。東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団を経て、東京都交響楽団首席オーボエ奏者を務める。2005年4月より高知大学教育学部教授に就任。「これから、指揮の方も活動の場を広げていきたいですね」



第2期土佐FBC 開講式を挙行

高知の食品産業を担う 人材育成に向けて

土佐フードビジネスクリエーター（土佐FBC）人材創出事業の平成25年度開講式が5月10日に挙行政されました。土佐FBCは平成20〜24年度を事業期間とし、文部科学省からの助成により、食品産業の中核となる人材を県内に多数輩出してきました。その実績が認められ、県や銀行、JFA、市町村振興協会等の支援を受け、さらに高知県からの寄附講座となり、平成25年度以降も土佐FBCの第2期として継続します。今後ますます人材育成に尽力し、高知の食品産業を盛り上げていきます。



バーレーン医科大学と 大学間国際交流協定

研究でつながる 高知大学と海外

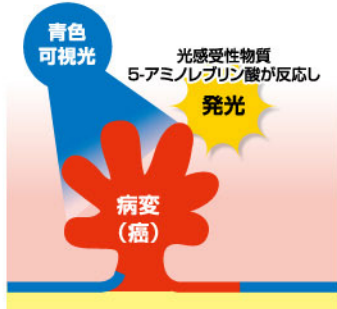
高知大学医学部泌尿器科学教室が日本で初めて導入し、臨床試験に取り組んでいる「癌を光らせて微小な癌まで残らず取り除く蛍光膀胱鏡による術中光力学診断」をバーレーン医科大学の医師が視察したことがきっかけとなり、バーレーン医科大学がその画期的な診断方法等の技術を学びたいと希望したことから、今回の締結となりました。今後は、高知大学とバーレーンとの共同研究の実現に向け、研究者や学生の交流を行い、教育・研究の発展につなげて行きます。



▲バーレーン医科大学/バーレン校サミエルオトム副学長

蛍光内視鏡(膀胱鏡)による 術中光力学診断(PDD)とは

術中光力学診断とは、病変(癌)に集積した光感受性物質に特定波長の光を当て発光させることで従来の方法で視認が出来なかった病変も検出が可能になる診断方法です。



附属幼稚園、附属小学校合同 地震避難訓練実施

来たる災害に備えて

南海地震を想定した避難訓練が幼稚園・小学校合同で5月15日に行われました。地震発生の緊急一斉放送の後、園児・児童は防災頭巾をかぶり、年少児は幼稚園教諭に手をひかれるなどして、指定された運動場に避難しました。続けて、津波が発生したとの想定で、小学校の屋上へ避難する訓練も行われました。



春の叙勲 大学関係者2名受章

名誉ある受章

このたび、長年教育研究に功労してきたとして高知大学関係者2名が名誉ある受章をされました。

瑞宝小綬章

元高知大学事務局長
佐藤 昭一(さとう しょういち)氏

元高知医科大学事務局長
田崎 智(たさき ちか)氏



医療学系 齊藤源頭教授 2年連続IJU Reviewers of the Year受賞

IJU(International Journal of Urology) Editorial Board Meetingにて、編集委員会より優秀な査読者に贈られるIJU Reviewers of the Year 2012を、薬理学講座・齊藤教授が2年連続で受賞されました。今回の受賞について、「査読は、自身の研究論文を書くのとは違い、ボランティアの意味合いがあると思っています。一生懸命、真摯に取り組んできたことが評価され、賞を頂いたことに誇りを感じています」とコメント。



▲IJU Reviewers of the Year賞 賞状



医療学系 基礎医学部門教授 さいとう もとあき 齊藤 源頭

鳥取大学医学部准教授から、2013年4月1日より高知大学医学部薬理学講座の教授。専門は下部尿路生殖器の薬理学。「冬に雪の無い所で生活するのが楽しみです」

齊藤教授は、今年4月に高知大学に着任されたばかり。ポリシーをお聞きすると、「Don't put off till tomorrow what you can do today. 今日出来ることは、その日の内にする。朝、しっかりとスケジュールをたて、1日を計画的に過ごすこと。On, Offを上手に切り換え、仕事以外の、例えば家庭や趣味を大事にすること、それが仕事にも良い影響を与えます」と、ご自身もメリハリのある生活を20年以上続けて来られたとのこと。区局員のワーク・ライフ・バランスにも気を配られていらっしゃいます。

高知大学サッカー部 13年連続 全日本大学トーナメントに出場

四国予選を兼ねた大会で、高知大学サッカー部が13年連続23度目の優勝を果たし、8月に開幕(大阪)する全国大会に四国代表として出場することが決まりました。



堀之内 舞さん 中国四国学生陸上競技対校選手権で 2冠達成

高知県で開催された対校選手権大会で、堀之内さんが「やり投げ」、「七種競技」で優勝、2冠を達成しました。堀之内舞さん(教育学部スポーツ科学コース2年)は9月に開催される全国大会「日本学生陸上競技対校選手権」(東京)の出場権を獲得しました。

大貫 慧介さん 空手道で国体県代表に決定

空手道の県選手権が開催され、組手の成年男子の中量級で大貫慧介さん(医学部医学科4年)が優勝し、9月開催の東京国体・県代表としての出場資格を得ました。